# 秩父地域鳥獣害対策協議会の取り組み 一埼玉県秩父地域ー

秩父地域鳥獣害対策協議会は、秩父地域1市4町の関係機関で構成されている鳥獣被害防止のための広域組織である。 鳥獣害対策に自ら取り組む地域に対する支援により、鳥獣害に強い地域づくりを目指している。

# 秩父地域の課題

- 〇秩父地域は秩父市、横瀬町、皆野町、 長瀞町、小鹿野町の1市4町で県の 西部に位置する中山間地域であり、 サル、シカ、イノシシ、アライグマ、 ハクビシン等による農作物被害が問 題となっている。
- ○秩父地域の課題である、野生鳥獣に よる農作物被害防止対策を効果的に 推進するため、平成21年に1市4町 及び猟友会、県関係機関による広域 連携組織「秩父地域鳥獣害対策協議 会」を設立し、研修会や対策展示ほ の設置、横の連携による情報の共有 など、「守る、獲る、追い払う等」 の総合的な鳥獣被害対策に取り組ん でいる。



《秩父地域鳥獸害対策協議会総会》

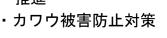
# 主な対策

秩父地域鳥獣害対策協議会は主に「ちち ぶ定住自立圏構想」からの負担金を活用 し、農業現場における鳥獣害対策を中心 として様々な事業を実施している。

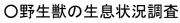
#### 〇被害防止対策

- 広域防護柵設置に向け、 集落の合意形成と設置 推准

〇有害鳥獣捕獲支援



・個体数調整に向けたくくり罠の配布



- GPS・テレメトリー 発信機利用によるサル 軍の追払い活動推進
- ○野生獣の捕獲実証
- ICTを活用した囲い罠による捕獲の実証



《シカの捕獲実証》



《地域住民による設置》

《イノシシの捕獲実証》

# 対策の効果

【平成29年度の活動実績】

事業名	内容
広域防護柵 設置	シカやイノシシなどの大型獣を 対象に2地区で広域防護柵を 設置。地域住民が中心となっ て柵を設置した。
有害鳥獣捕 獲支援	有害鳥獣駆除に従事する猟 友会会員に個体数調整用くく り罠を配布した。
野生獣の生 息状況調査	サルに装着した発信機データ を積み上げることにより行動 域の解析を行った。
野生獣の捕 獲実証	ICTを活用した囲い罠を設置し、 スマートフォンを用いた遠隔操 作でシカの捕獲を実証した

- ○協議会事業の実施により、獣害対策を地 域で取り組む意識が醸成された。
- Oまた、関係機関の連携と情報共有を図るた め、研修会や先進地視察を実施し、対策 に関する知識や指導力が向上した。
- 〇協議会を設立した平成21年度の被害金額 7.300万円から、地域での取り組みが進ん だことから平成29年度は3,000万円にまで 減少した。

# 秩父地域鳥獣害対策協議会の取り組み 一埼玉県秩父地域ー

野生鳥獣は行政区をまたい で行動する。隣接する市町 の連携が重要!!

#### きっかけ

- 島獣被害の拡大に伴う、 営農意欲の低下
- 秩父地域は山間部が多く 鳥獣害への対策は広域で の連携が重要

### Step1(H21)協議会の設立

- 〇秩父地域における鳥獣害対策 について、関係機関が情報共有 を図りながら広域的に取り組む 課題を協議・調整し、活動計画を 策定する協議会を設立
- 〇県関係機関、市町、農協、森林 組合、漁協、猟友会等の23組織 で構成

### Step2(H21~)対策事業の検討

- 〇各機関の担当者で会議を開催。協 議会事業について検討
- 〇検討した協議会の主な事業
- ・有害鳥獣の被害状況と行動域の 把握
- ・地域の環境整備や被害防止対策 などの普及啓発
- ・地域の鳥獣害対策の意識醸成

獣害対策を人任せにしない地域づくりを 目指す!!

#### Step3(H22~) 獣害対策の実施

- 〇サルテレメトリーシステムを活用した サルの追払いを開始
- ○獣害対策実証ほの設置
- 〇ジビエ活用検討(ジビエ活用分科会 の設置)
- ○罠などの個体調整用資材の整備

#### 取組みの成果

- ○協議会が設立されたことにより、秩父郡市の関 係機関の情報共有の場が設けられた。
- ○関係機関の連携により、共同して対策や調査 研究を行う体制が構築された。
- 〇研修を重ねることにより、担当者の鳥獣害対策 の正しい知識の習得が進み、郡市内の各地区 において生産者への指導が可能になった。
- ○協議会が地域の取組を後押しすることにより、 平成21年度と比較して被害金額が半減した。

将来に向けて

査・研究についても検討する。

○秩父地域では電気柵の導入が進んでいる。

# 野生動物の侵入を許さない! 防護柵「電落(でんらく)くん」を点検しよう ネットと支柱はすき間なく! 観察パンドでいっかり聞めよう 詳しい設置方法は「でんらくくん」で検索たっては、事前に各市町または核父母井田男センターにご相

T

大夫な衛落ネット & 電線高さ38cm 次作のため、近隣は場のために、環気権 動物が傾れる可能性を傾らしましょう。

#### Step6 被害防止の進展

- 〇農業技術研究センターが開発した電気 柵の「楽落くん」、防護柵の「電楽くん」 の普及と広域防護柵の設置が進んだ。 平成27年度から3か年で設置距離は 約66kmを超えた。
- 〇サルを対象とした集落ぐるみでの追い払 い活動が実施されるようになった。
- ○環境整備が進み、野生鳥獣が里へ侵入

# Step4(H24~)広域的な取組みの開始

- ○獣害防止広域柵の設置
  - イノシシやシカなどの大型獣の侵入を防ぐため、 広域柵の設置をモデル事業として実施
- ○環境整備の実施

有害鳥獣の住処となる雑木等を伐採し、出没場所 の整備を実施

- ○啓発資料としてパンフレットを作成
- 〇ジビエ衛生管理マニュアル作成

協議会として衛生マニュアルを策定。マニュアル に則り、食肉処理業者によるシカ肉の加工と流通 が進んだ。

- 取 組 を 経

  - するのを防ぐ地域が増えてきた。

# Step5 (H28~)新たな技術などの導入

OGPSを活用したサル行動域の把握

OICTを活用した囲いわなを利用した捕獲実証

鳥獣害対策に 必要なデータの積み上げ

しかし、現状では適切に管理されていない電気 柵の設置も散見される。生産者が、導入した電 気柵や防護柵を適切に管理できる指導体制を 構築する必要がある。 〇引き続き協議会担当者や地域住民への鳥獣被 害対策の正しい知識の習得と情報共有を図る。 〇今後はドローンやICTを活用した新技術の調